

平成 28 年 9 月 15 日

団体検査員 各 位

(一社) 愛媛県中小建築業協会
事務局長 芳野 真寿夫

まもりすまい保険現場検査チェックシート（特定住宅版）の改訂について

初秋の候、各位におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また日頃は、当協会運営につきご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、全建連を通じて、別紙のとおり現在の現場検査チェックシート（特定住宅版）を改訂し 10 月 5 日、まもりすネットにリリースする旨通知がありましたので、お知らせ致します。

なお、自主検査マニュアルの更新は全建連ホームページに 10 月よりアップロードする予定です。

つきましては、ちきゅう住宅供給促進事業のちきゅう住宅（特定住宅）審査、検査規定また、ちきゅう住宅設計施工基準等に当たって、住宅の審査、現場検査業務を誠実に遂行して頂きますようお願い申し上げます。

まもりすまい保険
団体検査員 各位

平成 28 年 9 月 8 日

住宅保証機構株式会社
技術部長 若山 毅

まもりすまい保険 現場検査チェックシート (特定住宅版) の改訂について

平素より弊社の現場検査業務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在の現場検査チェックシート (特定住宅版) は平成 21 年 12 月に制定して以来、約 6 年半にわたって使用しております。今回、事故抑制を大きな目的として現場検査チェックシート (特定住宅版) の検査項目の見直しを行い、あわせて、現場検査チェックシート作成時の団体検査員の負担を軽減するために様式の合理化を行います。

現場検査チェックシート (特定住宅版) の主な改訂内容、まもりすネットにおけるリリース日等は下記及び別紙をご参照ください。

業務ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、現場検査チェックシート (特定住宅版) の改訂につきまして、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

記

1. 現場検査チェックシート (特定住宅版) の主な改訂内容について

現場検査チェックシート (特定住宅版) の主な改訂内容は別添 1 のとおりです。また、改訂後の現場検査チェックシートの様式は別添 2～5 のとおりです。

2. まもりすネットのリリース日：平成 28 年 10 月 5 日 (水)

現場検査チェックシート (特定住宅版) は、平成 28 年 10 月 5 日 (水) にまもりすネットにリリースいたします。リリース日以降、まもりすネットの現場検査詳細画面等から現場検査チェックシート (特定住宅版) を出力いたしますと、新しいチェックシートが表示されます。

3. 現場検査チェックシート(特定住宅版)の運用開始について

まもりすネットのリリース方法は保険申込受付日や現場検査予定日等を基準にせず、リリース日以降にまもりすネットから出力したものが改訂版に置き換わるという方法としております。このため、現場検査実施日を基準として、平成28年10月5日(水)～平成29年3月31日(金)までは移行期間として、現行及び改訂版、どちらのチェックシートも使用可能とし、平成29年4月1日(土)以降は改訂版の現場検査チェックシート(特定住宅版)を使用することといたします(下表参照)。

移行期間は余裕を大きく見込んで設定しておりますが、可能な限りすみやかに改訂版のチェックシートを使用して検査を実施して頂きますよう、ご協力の程、よろしくお願いたします。

表 現行と改訂版の現場検査チェックシートの利用の可否について

現場検査 チェックシート	現場検査チェックシート(特定住宅版)の利用の可否 (現場検査実施日を基準)		
	平成28年10月4日 (火)以前 <リリース前>	平成28年10月5日(水)～ 平成29年3月31日(金) <移行期間>	平成29年4月1日(土) 以降 <完全切替>
現行	○	○	×
改訂版	×	○	○

4. 自主検査マニュアルの更新について

団体検査員が使用する自主検査マニュアルは、団体検査員が所属する特定団体が作成しております。自主検査マニュアルの更新等につきましては、所属する特定団体からのご案内を確認願います。


以上

※添付資料

- 別添1 : 現場検査チェックシート(特定住宅版) 主な改訂内容
- 別添2 : 木造軸組工法用 現場検査チェックシート
- 別添3 : 枠組壁工法用 現場検査チェックシート
- 別添4 : RC・SRC・CB造用 現場検査チェックシート
- 別添5 : 鉄骨造用 現場検査チェックシート

【担当】技術部技術管理課 松原、寶泉
連絡先
TEL : 03-6435-8865 FAX : 03-3432-0572

現場検査チェックシート(特定住宅版) 主な改訂点

木造軸組工法用 現場検査チェックシート(基礎)/特定住宅版 				
事業所		申込受付番号		
事業者情報 12345678 株式会社〇〇〇〇		現場検査 立会者名	平成 ① 日	
団体検査 員番号		現場検査 日時		
団体検査 員名		時	分	
検査項目	適否の判断基準		判定	確認方法
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	<input type="checkbox"/> 設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・SWSは4脚含めて4箇以上 又は工学的根拠が ・適切な地盤調査方法である(※平板載荷試験の単独は不可) <input type="checkbox"/> 現地調査チェックシートが全てA判定のため地盤調査を省略している(戸建木造2階建て相当に限る)	②	目視
	2 地盤調査の査察	地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている		計測
2 地業・地盤補強	1 地業	地業を実施している		書類
	2 地盤補強の実施状況	<input type="checkbox"/> 地盤調査結果に基づいた考察において、地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 考察に基づいて地盤補強工法が選定され、実施されている(工法を以下にチェック) <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他()		照取
3 基礎	1 基礎の構造	基礎の形式が地盤調査結果等に基づいて選択されている 根入れ深さが告示1347号に適合するように設計、施工されている ・布基礎240mm以上 ベタ基礎120mm以上		
	2 底盤	布基礎	告示1347号に適合するように設計、施工されている ・厚さ150mm以上 ・底盤の許容応力度に適合した底盤の幅 ・ベース筋の径D10以上、間隔300mm以下	
		ベタ基礎	配筋根拠が以下のいずれかである <input type="checkbox"/> ベタ基礎配筋表 <input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 工学的判断(告示1347号、スパン表等) 配筋根拠に基づいて施工されている ・告示1347号 底盤の厚さ120mm以上、鉄筋径D10以上 間隔300mm以下	
	3 立上り部分	告示1347号に適合するように施工されている ・厚さ120mm以上 ・鉄筋径 主筋D13以上、縦筋D10以上、間隔300mm以下 鉄筋の継手 <input type="checkbox"/> 重ね継手 <input type="checkbox"/> その他		
4 別工区の施工状況	<input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある(工区を以下にチェック) <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎			
3案確認	□無 □有⇒機構整理番号:			
特記事項				
結果	□ 鉛封内容はありません □ 鉛封内容通知書を確認する			

主な改訂点①：判定欄「未」の記入の廃止

現場検査時に未施工の検査項目は、書類や聴取で施工予定の内容を確認しつつ、判定欄に「未」と記入していましたが、ルールが煩雑であることを一因に誤った運用が散見されたため、判定欄に「未」と記入するルールを廃止いたします。
未施工部分は施工予定の内容を確認し、判定欄には「適否：○ 又は ×」を記入することとします。

主な改訂点②：数値の記入や工法の記録の廃止

現場検査チェックシートの中央にある「施工内容等の記録」欄を「適否の判断基準」欄に変更します。これにより、数値の記入や工法の記録を極力廃止し、原則し点のみの記入とすることで、団体検査員の負担の軽減を図っております。

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
確認方法欄 [確認の箇所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

郵便番号

申込受付番号									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名				
現場検査日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法			
				目視計測	書類	聴取	
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	<input type="checkbox"/> 設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・SWSは4隅含めて4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可） <input type="checkbox"/> 現地調査チェックシートが全てA判定のため地盤調査を省略している（戸建木造2階建て相当に限る）					
	2 地盤調査の考察	地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている					
2 地業・地盤補強	1 地業	地業を実施している					
	2 地盤補強の実施状況	<input type="checkbox"/> 地盤調査結果に基づいた考察において、地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 考察に基づいて地盤補強工法が選定され、実施されている（工法を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
3 基礎	1 基礎の構造	基礎の形式が地盤調査結果等に基づいて選択されている 根入れ深さが告示1347号に適合するように設計、施工されている ・布基礎240mm以上 ベタ基礎120mm以上					
	2 底盤	布基礎	告示1347号に適合するように設計、施工されている ・厚さ150mm以上 ・地盤の許容応力度に応じた底盤の幅 ・ベース筋の径D10以上、間隔300mm以下				
		ベタ基礎	配筋根拠が以下のいずれかである <input type="checkbox"/> ベタ基礎配筋表 <input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 工学的判断（告示1347号、スパン表等） 配筋根拠に基づいて施工されている ・告示1347号 底盤の厚さ120mm以上、鉄筋径D10以上 間隔300mm以下				
	3 立上り部分		告示1347号に適合するように施工されている ・厚さ120mm以上 ・鉄筋径 主筋D13以上、縦筋D10以上、間隔300mm以下 鉄筋の継手 <input type="checkbox"/> 重ね継手 <input type="checkbox"/> その他				
		4 別工区の施工状況	<input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎				
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：					
特記事項							
結果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する					

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「シ」を記入]

邸

申込受付番号									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業者 情報		
団体検査 員番号		
団体検査 員名		

現場検査 立会者名				
現場検査 日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法		
				目視 計測	書類	聴取
基礎	3 5	基礎高さ	地盤面からの高さが300mm以上である（特定住宅は400mm以上）			
4 土台	1	土台の 設置状況	<input type="checkbox"/> 柱の下部に土台を設置 <input type="checkbox"/> 柱を基礎に緊結 <input type="checkbox"/> その他（足固め設置等）			
	2	基礎との 緊結	土台と基礎がアンカーボルト等により緊結されている			
5 柱	1	小径	1階部分の柱の小径が建築基準法施行令第43条第1項を 満たす径である			
	2	欠き込み	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（補強措置を実施）			
	3	すみ柱	<input type="checkbox"/> 通し柱 <input type="checkbox"/> 管柱（補強措置を実施）			
	4	柱脚・柱頭 の接合方法	金物の設置に明らかな不具合が無い ・種類 ・留め付け方法 ・締め付け状態 等			
6 耐力壁	1	筋かい耐力 壁	筋かいの欠き込み <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり（補強金物を設置） 端部金物の設置状況に明らかな不具合が無い ・金物の種類、留め付け方法			
	2	面材耐力壁	<input type="checkbox"/> 構造用合板 <input type="checkbox"/> 構造用パネル <input type="checkbox"/> せっこうボード <input type="checkbox"/> その他 ・JASマーク等の認定マーク等から確認 面材耐力壁の釘打ち間隔が以下のいずれかを満たしている <input type="checkbox"/> 面材の仕様 <input type="checkbox"/> 告示1100号			
架7 材横	1	欠き込み	中央下端部に構造耐力上支障となる欠き込みがない			
8 床組	1	火打ちばり	火打ちばりが設計図書とおりの位置に設置されている			
	2	面材床	2階以上の床が面材床で構成されている			
9 小屋組	1	振れ止め	<input type="checkbox"/> 振れ止め等が設置されている <input type="checkbox"/> 構造計算により省略 <input type="checkbox"/> 屋根緩勾配等により振れ止め無し			
	2	たる木	軒先と接合されている			
	3	構成材	小屋組みが以下のいずれかの部材で構成されている <input type="checkbox"/> 火打ちばり <input type="checkbox"/> 面材			
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結 果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「し」を記入]

郵便番号

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名				
現場検査日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法			
				目視計測	書類	聴取	
1 地盤調査	1 地盤調査の実施状況	<input type="checkbox"/> 設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・SWSは4隅含めて4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可） <input type="checkbox"/> 現地調査チェックシートが全てA判定のため地盤調査を省略している（戸建木造2階建て相当に限る）					
	2 地盤調査の考察	地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている					
2 地業	1 地業	地業を実施している					
	2 地盤補強の実施状況	<input type="checkbox"/> 地盤調査結果に基づいた考察において、地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 考察に基づいて地盤補強工法が選定され、実施されている（工法を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
3 基礎	1 基礎の構造	基礎の形式が地盤調査結果等に基づいて選択されている					
		根入れ深さが告示1347号に適合するように設計、施工されている ・布基礎240mm以上 ベタ基礎120mm以上					
	2 底盤	布基礎	告示1347号に適合するように設計、施工されている ・厚さ150mm以上 ・地盤の許容応力度に応じた底盤の幅 ・ベース筋の径D10以上、間隔300mm以下				
		ベタ基礎	配筋根拠が以下のいずれかである <input type="checkbox"/> ベタ基礎配筋表 <input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 工学的判断（告示1347号、スパン表等） 配筋根拠に基づいて設計、施工されている ・告示1347号 底盤の厚さ120mm以上、配筋は鉄筋径D10以上 間隔300mm以下				
3 立上り部分		告示1347号に適合するように施工されている ・厚さ120mm以上 ・鉄筋径 主筋D13以上、縦筋D10以上、間隔300mm以下					
		鉄筋の継手 <input type="checkbox"/> 重ね継手 <input type="checkbox"/> その他					
4 別工区の施工状況		<input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎					
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：					
特記事項							
結果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はあります <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する					

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「シ」を記入]

邸

申込受付番号									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業者 情報		
団体検査 員番号		
団体検査 員名		

現場検査 立会者名				
現場検査 日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法		
				目視 計測	書類	聴取
基礎	3 5	基礎高さ	地盤面からの高さが300mm以上である（特定住宅は400mm以上）			
4 材料	1	枠組材	土台、壁枠組材、たる木、天井根太が38mm×89mmを満たしている □床枠組材（根太）の断面寸法が38mm×140mmを満たしている □根太レス工法			
	2	面材	床、壁、屋根下地に用いられている面材が告1540第二の二に掲げられている表に適合する種類、規格である（種類を以下にチェック） □構造用合板 □構造用パネル □パーティクルボード □その他（ ）			
5 土台	1	土台の 設置状況	・1階の耐力壁の下部に土台が設置されている ・地階があり、耐力壁の下部に土台が設置されていない場合、床根太が補強されている			
	2	アンカーボルトの間隔	径12mm以上かつ、長さ350mm以上のアンカーボルトが隅角部及び土台の継手部分に2m以下の間隔で配置されている			
6 床版	1	床根太の 設置	□床根太のスパンが8m以内である □床根太のスパンが4.5m以上8m以内であり、床根太の辺長比が38mm×286mmより大きいため、3m以下ごとに転び止めが設けられている □根太レス工法である 床根太相互及び床根太と側根太との間隔が650mm以下である			
	2	開口部	床版開口部に補強措置が講じられている			
7 壁等	1	耐力壁の 量・配置	耐力壁線間距離が12m以下である 耐力壁線に囲われた部分の面積が以下のとおりである □40㎡以下 □40㎡超60㎡以下（補強措置有り） □60㎡超72㎡以下 長辺/短辺≤2（補強措置有り）			
	2	開口部の 構造	耐力壁線上の開口部幅が以下のとおりである ・幅が4m以内である ・開口部の幅の合計が当該耐力壁線の長さの4分の3を超えていない			
架8 材横	1	床根太等の 欠き込み等	横架材の中央部付近の下部に構造耐力上支障となる欠き込みがない			
9 小屋組	1	たる木等	たる木相互の間隔が650mm以下である たる木つなぎ、振れ止めが設置されている			
	2	小屋組の 緊結	たる木又はトラスが頭つなぎ及び上枠に金物等で緊結されている			
	3	開口部の 構造	開口部の幅が以下のとおりである ・一箇所あたりの開口部の幅が2m以下である ・幅が2m超3m以下の開口部に補強等の措置が講じられている			
3条確認		□無 □有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結 果		□ 指摘内容はありませぬ □ 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

郵便

申込受付番号									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業者 情報		
団体検査 員番号		
団体検査 員名		

現場検査 立会者名				
現場検査 日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法		
				目視 計測	書 類	聴 取
1 地盤調査	1	地盤調査の実施状況 設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・計測箇所4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可）				
	2	地盤調査の考察 地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている				
2 杭・ 地盤補強	1	杭基礎 杭基礎の種類、仕様が設計図書とおりである				
	2	地盤補強の実施状況 地盤調査結果の考察又は設計者の考察に基づいて、以下いずれかの対応がなされている <input type="checkbox"/> 地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 地盤補強が実施されている（工法を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
3 基礎	1	基礎の構造 <input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 設計施工基準第6条による （壁式鉄筋コンクリート造で2階建て以下の住宅に限る）				
	2	鉄筋のかぶり 土に接する部分のかぶり厚さが設計図書とおりである				
	3	鉄筋の品質 躯体に用いられている鉄筋の品質がJIS規格品（JIS G 3112） 又は大臣認定品である				
	4	独立基礎の配筋 鉄筋径・本数・間隔等が設計図書とおりである				
	5	基礎梁の配筋 基礎梁主筋の径・本数、肋筋の径・間隔等が設計図書とおりである				
	6	スラブ配筋 基礎スラブ（耐圧盤）の鉄筋径・間隔等が設計図書とおりである				
	7	鉄筋の定着 主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである				
	8	主筋の継手 主筋の継手位置が設計図書とおりである				
	9	開口補強 開口部の補強配筋が設計図書と通りに施工されている				
	10	別工区の施工状況 <input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎				
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]

確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

郵便

申込受付番号									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

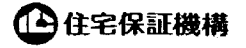
事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名				
現場検査日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時 分

検査項目	適否の判断基準		判定	確認方法		
				目視計測	書類	聴取
コンクリート	1	品質	コンクリートがJIS規格品（JIS A 5308）又は大臣認定品である			
	2	強度	<input type="checkbox"/> コンクリートの圧縮強度が品質基準強度以上であることが4週強度の試験報告書等により確認できる <input type="checkbox"/> コンクリートの納品書や配筋計画書に記載されている調査管理強度（呼び強度）が品質基準強度以上である			
	3	打上りの状態	打込み欠陥（ジャンカ・打継欠陥・硬化不良等）が無く、均質に施工されている			
5 鉄筋	1	鉄筋の品質	躯体に用いられている鉄筋の品質がJIS規格品（JIS G 3112）又は大臣認定品である			
6 り厚かさ	1	鉄筋かぶり厚さ	柱、梁及び耐力壁は30mm、床版は20mmのかぶり厚さが確保されている			
7 柱	1	寸法・配筋方法	柱寸法、主筋の径・本数、帯筋の径・間隔が設計図書とおりに施工されている			
8 梁	1	寸法・配筋方法	梁寸法、主筋の径・本数、肋筋の径・間隔が設計図書とおりに施工されている			
	2	鉄筋の定着	梁主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりでである			
	3	梁・壁梁の開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている			
9 継手	1	主筋の継手	柱と梁の主筋の継手位置が設計図書とおりでである			
	2	継手の品質検査	柱と梁の主筋の継手部の品質検査が実施されている			
10 壁	1	耐力壁の厚さ	耐力壁厚さが120mm以上（CB造は150mm以上）である			
	2	配筋方法・鉄筋の定着	鉄筋の径・間隔、柱・梁等への定着長さが設計図書とおりでである			
	3	壁の開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている			
	4	耐震スリット	耐震スリットが設計図書とおりに設置されている			
11 床版	1	スラブ厚さ	スラブ厚さが設計図書とおりでである			
	2	配筋方法・鉄筋の定着	スラブ筋の径・間隔等が設計図書とおりでである			
	3	片持ちスラブ	片持ちスラブの定着及び上端筋の高さ位置が確保されている			
P1 C2	1	緊結	プレキャスト版相互の緊結状況が設計図書とおりでである			
3条確認			<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：			
特記事項						
結果			<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する			

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「シ」を記入]

RC・SRC・CB造用
現場検査チェックシート（SRC補充版）/特定住宅版



郵便

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名				
現場検査日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時

検査項目		適否の判断基準	判定	確認方法		
				目視計測	書類	聴取
柱脚 A	1	接合法	柱脚の接合法が設計図書とおりの工法である			
鋼材 B	1	鋼材等の品質	鋼材が J I S 規格品又は大臣認定品である			
C 鉄骨の施工	1	部材の寸法・形状・配置	柱が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
			梁が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
			筋交いが設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
	2	溶接接合部の検査	溶接部を対象に以下の検査が実施され、割れやアンダーカット等の構造耐力上支障のある欠陥が無い <input type="checkbox"/> 外観検査 <input type="checkbox"/> 超音波探傷検査			
	3	高力ボルト接合	高力ボルトとして以下の部材が用いられ、本数、スプライス数等が設計図書のとおり施工されている <input type="checkbox"/> トルシア形 <input type="checkbox"/> J I S 形六角			
			摩擦接合部の摩擦面は、赤さびが発生した状態又はショットブラスト等の方法で所定のすべり係数を有する状態である			
		締付け状態に明らかな不具合がない ・肌すぎがないこと ・ピンテールが破断していること ・マーキングにズレがあり共回りしていないこと				
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「シ」を記入]

邸

申込受付番号

事業者 情報	
団体検査 員番号	
団体検査 員名	

現場検査 立会者名	
現場検査 日時	平成 年 月 日 時 分 ~ 時 分

検査項目		適否の判断基準	判 定	確認方法		
				目視 計測	書 類	聴 取
1 地盤 調査	1 地盤調査の 実施状況	設計施工基準に基づいて地盤調査が実施されている ・計測箇所4箇所以上 又は工学的根拠から3箇所以下 ・適切な地盤調査方法である（※平板載荷試験の単独は不可）				
	2 地盤調査の 考察	地盤調査会社等が工学的に考察を行い、地盤補強の要否や基礎の形式等が判断されている				
2 杭・ 地盤 補強	1 杭基礎	杭基礎の種類、仕様が設計図書とおりである				
	2 地盤補強の 実施状況	地盤調査結果の考察又は設計者の考察に基づいて、以下いずれかの対応がなされている <input type="checkbox"/> 地盤補強が不要と判断されている <input type="checkbox"/> 地盤補強が実施されている（工法を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 柱状改良 <input type="checkbox"/> 表層改良 <input type="checkbox"/> 小口径鋼管杭 <input type="checkbox"/> 木杭 <input type="checkbox"/> 小口径コンクリート杭 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
3 基礎	1 基礎の構造	<input type="checkbox"/> 構造計算 <input type="checkbox"/> 設計施工基準第6条による				
	2 鉄筋の かぶり	土に接する部分のかぶり厚さが設計図書とおりである				
	3 独立基礎の 配筋	鉄筋径・本数・間隔等が設計図書とおりである				
	4 基礎梁配筋	基礎梁主筋の径・本数、肋筋の径・間隔等が設計図書とおりである				
	5 スラブ配筋	基礎スラブ（耐圧盤）の鉄筋径・間隔等が設計図書とおりである				
	6 鉄筋の定着	主筋の定着位置、定着長さが設計図書とおりである				
	7 主筋の継手	主筋の継手位置が設計図書とおりである				
	8 開口補強	開口部の補強配筋が設計図書とおりに施工されている				
	9 別工区の 施工状況	<input type="checkbox"/> 現場検査時に未施工の工区がある <input type="checkbox"/> 現場検査時に施工済の工区がある（工区を以下にチェック） <input type="checkbox"/> 深基礎部分 <input type="checkbox"/> 一部地下部分の基礎 <input type="checkbox"/> 別工区部分の基礎				
鉄筋 4	1 鉄筋の品質	鉄筋がJIS規格品（JIS G 3112）又は大臣認定品である				
5 柱 脚部	1 露出柱脚	アンカーボルトが設計図書とおりの位置に施工されている				
	2 根巻柱脚	根巻き部分の高さ、根巻き部分の主筋の本数及び基礎への定着が設計図書とおりに施工されている				
	3 埋込み柱脚	埋込み部分の寸法・かぶり（埋込み深さ及び鉄骨かぶり厚さ）が設計図書とおりに施工されている				
3条確認		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項						
結 果		<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】 判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]

郵便

申込受付番号							
--------	--	--	--	--	--	--	--

事業者情報		
団体検査員番号		
団体検査員名		

現場検査立会者名				
現場検査日時	平成	年	月	日
	時	分	～	時

検査項目	適否の判断基準	判定	確認方法		
			目視計測	書類	聴取
コンクリートの基礎	1 品質	コンクリートがJIS規格品（JIS A 5308）又は大臣認定品である			
	2 強度	<input type="checkbox"/> コンクリートの圧縮強度が品質基準強度以上であることが4週強度の試験報告書等により確認できる <input type="checkbox"/> コンクリートの納品書や配合計画書に記載されている調合管理強度（呼び強度）が品質基準強度以上である			
	3 打上りの状態	打込み欠陥（ジャンカ・打継欠陥・硬化不良等）が無く、均質に施工されている			
鋼材	1 鋼材等の品質	鋼材がJIS規格品又は大臣認定品である			
8 鉄骨の施工	1 部材の寸法・形状・配置	柱が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
		梁が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
		筋交いが設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
		床版が設計図書にさだめる寸法・形状・配置で施工されている			
	2 溶接接合部の検査	溶接部を対象に以下の検査が実施され、割れやアンダーカット等の構造耐力上支障のある欠陥が無い <input type="checkbox"/> 外観検査 <input type="checkbox"/> 超音波探傷検査			
3 高力ボルト接合	高力ボルトとして以下の部材が用いられ、本数、スプライス数等が設計図書のとおり施工されている <input type="checkbox"/> トルシア形 <input type="checkbox"/> JIS形六角				
	摩擦接合部の摩擦面は、赤さびが発生した状態又はショットブラスト等の方法で所定のすべり係数を有する状態である 締付け状態に明らかな不具合がない ・肌すきがないこと ・ピンテールが破断していること ・マーキングにズレがあり共回りしていないこと				
3条確認	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有⇒機構整理番号：				
特記事項					
結果	<input type="checkbox"/> 指摘内容はありません <input type="checkbox"/> 指摘内容通知書を確認する				

【凡例】判定欄 [適合：○、不適合：×と記入、該当なし：「/」（斜線）を記入]
 確認方法欄 [確認の拠り所を明らかにし、該当する欄にチェックマーク「レ」を記入]